

2013年11月29日

開館25周年記念

魅惑のニッポン木版画

**25th Anniversary Exhibition of Yokohama Museum of Art
Fascinating Japanese Woodcut Print****2014年3月1日(土)～5月25日(日)**

休館日：木曜

開館時間：10:00～18:00（入館は17:30まで）

浮世絵から千代紙、現代アートまで——多様な木版芸術の世界

木版画は、日本人にとって最も親しみ深い芸術表現のひとつといえるでしょう。

江戸時代、浮世絵版画が一世を風靡し、木版画は「庶民の芸術」として定着しました。この時期には、人々の暮らしにより密着した千代紙や引き札などにも木版技法が用いられています。大正時代には、木版本来の力強い表現力を生かした「創作版画」や、浮世絵の繊細な線や鮮やかな色彩を受け継ぐ「新版画」が誕生しました。また、木版ならではの柔らかい風合いと近代的なデザインが融合した本の表紙や絵封筒なども、当時の人々の暮らしを彩っています。

伝統と革新の上に独自の発達をとげてきた日本の木版画は、戦後、国際的に大きな脚光を浴びることとなります。それにともなって国内でも木版画熱は再び高まりをみせ、現代にいたるまで、木版という伝統技法にこだわって制作を続けているアーティストが数多くみられます。

横浜美術館は幕末から現代までの約 1,600 点におよぶ木版画を所蔵しています。この展覧会では、当館の収蔵品を中心に、現代作家による新作も加えた約 200 点を通じて、各時代の木版表現の粋をご紹介します。庶民性と独創性にあふれる「魅惑のニッポン木版画」の世界を、どうぞご堪能ください。

第一章 幕末・明治—生活を彩る木版画

幕末から明治にかけての様々な木版表現をご紹介します。

江戸の伝統を引き継ぐ浮世絵版画、そして洋風表現を取り入れた新しい木版画が流行したこの時期、木版は人々の生活の身近にありました。千代紙やうちわ、引き札、のし袋といった暮らしを彩る印刷物もまた、「庶民の芸術」たる木版表現の真骨頂といえるでしょう。

【出品作家：歌川国芳、月岡^{よしとし}芳年、小林^{きよちか}清親 千代紙やうちわ絵など】

月岡芳年《風俗三十二相 けむさう 享和年間 内室之風俗》 1888年（明治21）
多色木版 37.4×25.2cm 横浜美術館蔵（加藤栄一氏寄贈）



作者不詳「団扇絵 裏絵」 江戸末期
多色木版 23.2×29.9cm
横浜美術館蔵（小島豊氏寄贈〔小島鳥水旧蔵〕）



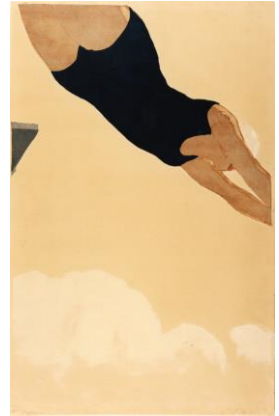
第二章 大正から昭和—木版画の復活

明治後期、石版印刷の普及により一時は廃れた木版画ですが、この時代にはその表現力に着目する作家たちが現れました。

自画・自刻・自摺による芸術表現を目指した「創作版画」、来日した外国人浮世絵師たちの活動、そして版元・渡邊庄三郎による「大正新版画」。

さらに竹久夢二や川上澄生は木版による雑誌の表紙や挿絵、便箋や千代紙などのデザインを積極的に手掛けました。

【出品作家：竹久夢二、恩地孝四郎、ヘレン・ハイド、川瀬巴水、橋口五葉 など】



恩地孝四郎 《ダイビング》1936年（昭和11）
多色木版 47.0×29.2cm
横浜美術館蔵（北岡文雄氏寄贈）

第三章 1950年代以降—国際的な舞台へ



戦後、日本の木版画は国際的な舞台へと活動の場を広げていきます。

1951年に斎藤清がサンパウロ・ビエンナーレで日本人賞を受賞したのを皮きりに、棟方志功や吉田穂高らの独創的な版画が国際展で脚光を浴び、版画熱は急速な高まりをみせていきました。

【出品作家：棟方志功、斎藤清、吉田穂高 など】

斎藤清 《凝視》 1962年（昭和37）
多色木版 53.0×38.7cm 横浜美術館蔵（斎藤清氏寄贈）

第四章 現代—新たな木版画の表現へ

2000年代以降のアーティストたちの作品をご紹介します。

コンテンポラリーアートの舞台でも木版画は健在です。今日的なテーマに向き合いながら、伝統的な木版技法を咀嚼して新しい表現を实践するアーティストたちによって、ニッポンの木版画の歴史は日々更新されています。

【出品作家：吉田亜世美、風間サチコ、桐月沙樹、湯浅克俊】



湯浅克俊 《3:05 am》 2013年（平成25）
手彩色紙に油性木版画 100×100cm 個人蔵

開催概要

開館25周年記念 **魅惑のニッポン木版画**

25th Anniversary Exhibition of Yokohama Museum of Art

Fascinating Japanese Woodcut Print

会 期 : 2014年3月1日 (土) ~5月25日 (日)

休 館 日 : 木曜日

開館時間 : 10 : 00~18 : 00 (入館は17 : 30まで)

会 場 : 横浜美術館 (〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1)

主 催 : 横浜美術館、日本経済新聞社

後 援 : 横浜市、横浜市教育委員会

観覧料

一般1,100 (1,000) 円、大学・高校生700 (600) 円、中学生400 (300) 円、小学生以下無料

※ () 内は前売、ならびに有料20名様以上の団体料金 (要事前予約)

※毎週土曜日は、高校生以下無料 (要生徒手帳、学生証)

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方 (1名) は無料

※本展チケットご観覧当日に限り、横浜美術館コレクション展もご覧いただけます

※チケットは、横浜美術館 (前売はミュージアムショップ)、セブン-イレブン店内のマルチコピー機「セブンチケット」(セブンコード :

027-017) にてお買い求めいただけます (前売は2014年2月28日 [金] まで販売)

※2014年3月29日 (土) は観覧料無料

※その他割引料金については別途、お問合せください

プレスリリースに関するお問い合わせ

横浜美術館 広報・渉外チーム 広報担当 (宮野、藤井、窪田)

Tel: 045-221-0319 Fax: 045-221-0317 e-mail: pr-yma@yaf.or.jp